

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 56 学校名 益田清風高等学校

社会的役割等 (スクール・ミッション)	多様な学びの選択が可能な下呂市唯一の高校として 地域と連携した探究的な学びを通して 挑戦し続ける心と、自ら考え行動し地域社会に貢献できる力の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通じて、進展する社会に主体的に対応できる生徒 一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒 地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成 将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身に付け、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施 	
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身に付けたい生徒 お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身に付けたい生徒 地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通じて、理解力、思考力、協働力、探究力を身に付けたい生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化、産業について情報提供が足りず実践的なスキルを学ぶ機会が限られている。地域住民や専門家を講師に招き、幅広い知識を提供することが必要です。 職場体験やインターンシップの機会が不足し、地域課題解決プロジェクトへの参加が少ない状況です。地域の企業や団体と連携し、実践的な経験を積む機会を増やすことが必要です。 地域行事やボランティア活動への参加が少なく、リーダーシップ育成の機会を逃している。地域社会の一員として自覚し、リーダーとして活躍できるよう促進することが必要です。 学校の取り組みを発信する広報活動やメディアを活用した連携が不十分である。ウェブサイトやSNSを活用した情報発信などメディアとの連携を強化することが必要です。 異なる年齢層の生徒同士の交流を充実させるために、中学生との合同企画や高校生による学習支援を通じて小中学生の高校進学への意欲を高める。同時に高校生の社会性を育てることが必要です。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善。 「個別最適な学び」と「協働的な学び」のICT活用による一体的充実。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 自己のあり方、生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、計画的、組織的に生徒を支援する。 ICTを活用し、キャリア教育及び基礎学力の向上を推進する。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 自他の人権や生命を尊重する意識の確立を促進する。 問題行動等の未然防止と事後指導の充実を図る。 	
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、生徒会活動、部活動を通じた主体性の育成と、課題解決能力を育成する。 学校と地域のつながりを大切にし、地域から信頼される学校を目指す。 	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	①地域との連携や教科横断的な学び、地域の様々な教育資源等を活用し、生徒の探究心の高揚や進路選択につながる実践を推進します。	施策Ⅰ-4	①地域との連携授業や探究的な学びの実践における満足度の割合や進路選択実績。				
	②「個別最適な学び」と「協働的な学び」のICT活用による一体的充実により、「生徒が主体的に学習に参加・調整ができる授業」として実践・充実させ、学びの深化を図ります。	施策Ⅱ-8	②ICT機器を活用した授業実践と授業評価アンケートでの評価。				
	③学校運営や教育活動を、学校運営協議会の提言をもとに地域と一体となって進めることにより、「地域とともにある学校づくり」をより一層推進します。	施策Ⅳ-20	③地域と一体なって進めた各種の教育実践の実績や教育活動の満足度。				
	④「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善として、観点別評価を活用し、生徒一人一人の具体的な学習状況を多角的に評価・検討することで、授業改善に取り組みます。	施策Ⅳ-26	④教員間での相互研修の実績と授業評価アンケートを生かした授業改善の取組結果。				
進路指導	①多様な進路に対応できるよう、各種説明会の開催やICTによる情報提供など、ガイダンス機能を充実させます。	施策Ⅱ-13	①生徒、保護者アンケートの結果				
	②ICT教材及びキャリア・パスポートを活用し、学校生活を通じ、進路及び卒業後のキャリアに必要な能力を養成します。	施策Ⅱ-13	②キャリアパスポートの活用度、内容の充実度				
	③地域の関係機関と連携し、職場体験学習や地元企業ガイダンスなどを実施し、広い視野をもって地域に貢献する資質を養成します。	施策Ⅱ-13	③生徒及び関係機関へのアンケート結果				
	④進路実現に向けて、ICT教材を活用し、基礎学力の充実及び個別最適な学びを推進します。	施策Ⅱ-8	④模擬試験等の結果及び進路実績				
生徒指導	①様々なアンケートや生徒観察から得た情報を職員間で共有し、いじめ等の未然防止と早期発見・早期解決に努めます。	施策Ⅰ-3	①9月までに認知されたいじめの年度内解決100%				
	②「自らの命は自ら守る」という自助の意識を醸成するため、災害安全・交通安全・情報モラル等の安全教育に努めます。	施策Ⅲ-19	②命を守る訓練・情報モラル講話・情報モラルLHRの実施。登下校指導における注意喚起および、自転車利用時におけるヘルメット着用の徹底。				
	③教材や外部人材を有効活用しながら、消費者教育の充実を図ります。	施策Ⅱ-12	③消費者講話の実施				
	④不登校傾向のある生徒への支援に向け、安心できる学校環境の整備に努め、SCやSSW等の外部の専門家を積極的に活用し、早期発見・早期対応を推進します。	施策Ⅰ-3	④不登校生徒(年間30日以上欠席者)のうち、学校内外の専門機関等で誰かに相談した生徒の割合100%				
特別活動	①文化祭への取組を通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。	施策Ⅰ-1	①行事の取組が生徒主体で行われており、自ら考え、絶えず変革しようとする姿勢が見られる。				
	②LHRの時間を活用し、主権者教育・消費者教育の機会を学年単位で充実させることで、地域社会の一員としての自覚と責任を深められるよう支援します。	施策Ⅱ-12	②地域社会の一員としての自覚が生徒に見られ、自らの行動に責任がもてる。				
	③球技大会への取組を通して、生徒が自発的にスポーツに参加し、クラスで一致団結する姿勢を育み、健全な体づくりができるよう支援します。	施策Ⅲ-16	③自発的にスポーツに取り組み、行事を通してクラスの親睦を深めることができている。				
	④部活動への自主的な取組を通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。また、地域との連携を意識して活動します。	施策Ⅳ-25	④部活動への取組が生徒主体で行われており、部活動を通して成長しようとする姿勢が見られる。				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和8年 月 日